

足谷に脚を踏み入れると、真っ黒な“カミキリムシ”が出迎えてくれました。

ぶどうの房の様に実を着けているのは、京都府準絶滅危惧種の“マツブサ”です。マスカットの様な色合いのかわいい実がぶら下がっていました。

<カミキリムシ>



<葡萄の様な形状の小さな実>



被害が少なかったとはいえ、“ヤマシャクヤク”の群生している斜面は、少し崩れていた部分が更に拡大してしまいました。

<7月11日の崩落状況>

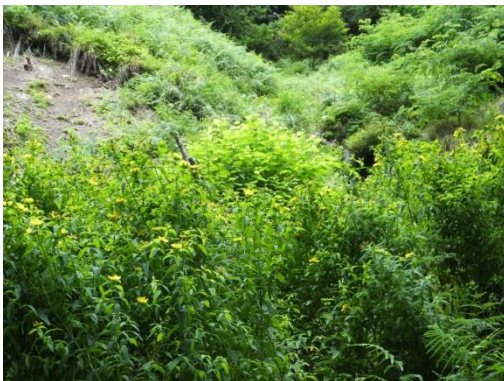


<7月25日の崩落状況>



“トモエソウ”が黄色い花を咲かせています。京都府絶滅寸前種に指定されているこの植物も足谷の会の方に保護されています。咲いた一輪一輪は一日でしおれる“1日花”で綺麗な花が一斉にとはいきません。

<トモエソウ>



<前日開花の花はしおれて>





2週間前にエンドウマメの様な実を着けていた“ヤマシャクヤク”も所々でその実がはじけ、中から赤や黒の種を露出させていました。

<弾け始めたヤマシャクヤクの実> <完全に種が露出したものも>



松ぼっくりに種が入っている事は御存知の方も多いと思います。おつまみにもなる「松の実」です。その実を“ニホンリス”が綺麗に食べた“食べかす”が散乱しています。両手で“松ぼっくり”を持って前歯で“カジカジ”とかじる姿が目につかびます。

トウモロコシを食べる様に綺麗に食べた芯が散乱しています。この芯を山の仲間内では“エビフライ”と呼んでいるそうです。なるほど！。

<散乱する松ぼっくりの食べかす> <エビフライのよう>



ヒカゲノカズラから伸びた新芽をなでてみると、真っ白な孢子が飛散します。こうして子孫を広めていきます。



<ストックで優しくなでると>



<胞子が飛びだします>



汗だくになりながら、癒しの森に到着しました。冷たい水で手を洗い、日陰で水音を聞きながら久保清美さんの愛情たっぷりのお弁当に舌鼓を打ちました。

山主さんの「綺麗な水をおかずに清美さんのお弁当を食べる贅沢なご馳走」という言葉に「本当にそのとおり」とお返事して幸せを感じる時間を過ごしました。

<癒しの森でお昼休憩>



<笑顔の久保さん夫妻>



お昼の休憩を終えて下山する途中、大きな“ミミズ”がお見送りに出てきてくれました。その名を“シーボルトミミズ”というそうです。手触りを試す参加者も・・・。「ぬめっとしているけど、指は濡れない」が感想でした。

<シーボルトミミズの感触は？> <ぬめっとしているが“濡れてない”>





この後、久保さんのお宅で休憩させて頂いて、「もくもく号」で市街地へ向かいました。もくもく号のバス停に向かう途中、トウモロコシの実の様な緑色の実を着けた植物を見て、あの松ぼっくりの「エビフライ」を思い出しながら、今回の発見はやはり「エビフライ」と思うのでした。

<マムシグサの実>

<緑のトウモロコシのよう>



後日、雲ヶ畑・足谷 人と自然の会の方に「このトウモロコシの様な実は何の実でしょうか」と尋ねてみると、“マムシグサ”の実と教えて頂きました。

緑の実は秋に赤く色づきますが、有毒だそうです。花の形状もマムシのカマクビのようですが、その名のとおり毒も持っているのですね。

<5月2日 “マムシグサ”の花> <いまにも噛みつきそう>



(さとし)